

令和6年度 第8回白山市ミライ会議 【概要】

日 時 令和6年7月20日(土)14:00～15:00

場 所 美川文化会館アクア 2階軽運動室

テーマ 【教育】 青少年のボランティア活動

出席者 11人〔青少年ボランティアグループ・スピリッツ、スピリッツジュニア等 〕



1. ボランティアでプラスに感じたこと

◆個人で立ち上げたボランティアグループ これまでの経験が一步を踏み出す勇気を育んだ (出席者①)

私は中学生の時にボランティアグループ「スピリッツジュニア」に出会い、活動を続けてきました。スピリッツ時代には募金活動やイベントの補佐を通じて、初対面の方々と交流する機会が多くありました。現在は海岸清掃のボランティア活動を行っており、SNS や地域の方々に声をかけて参加者を募っています。この活動を通じて、さまざまな方々とお話ししながら進めることができ、また公民館行事などで活動の様子を広めることで、たくさんのつながりを増やし、声をかけていただけることがうれしいです。

海岸清掃のボランティアグループ設立に際しては、初めての挑戦で迷いもありましたが、「まずはやってみよう」という思いで団体を立ち上げました。これまでのボランティア経験が、一步を踏み出す勇気を育んでくれたと感じています。また、海岸清掃を通じて自分自身が成長していると感じるだけでなく、職場や近所、公園でのごみ拾いにも抵抗がなくなりました。さらに、一緒に活動している子どもたちも自然にごみを拾う姿を見て、生活面でプラスの影響が出ていると実感しています。

(市長)

テレビで見るサッカーワールドカップでの日本人サポーターやメジャーリーグの大谷選手のごみ拾いは、強制ではなく自然な行動なのだと思います。皆さんが当たり前に行っている掃除や班活動なども、国によってはそうした習慣がないところもあり、学校で自然に学んでいるだろうと思います。

(出席者②)

ごみ拾いは日本式の教育らしく、それがエジプトや中東にも広がっているようです。

(市長)

皆さんはゴミを拾うことに抵抗はありませんか。

(出席者③)

スピリッツでは、おかえり祭りが終わった後、2 日目の朝、ごみ拾いをしています。子どもたちの発案で、「来た人に気持ちよくなってもらいたい」という思いから、毎年十数人が集まってゴミを拾っています。お祭りに来る人も、自分たちも、共に気持ちよくなるという感動を味わっているようで、いきいきと活動しています。

◆ボランティア活動を通じ多くの人と関わることで、視野が広がり新たな考え方も

(出席者④)

ボランティア活動を通じて、普段の生活で接点のない人たちと交わる機会が多くあります。以前は人の気持ちを汲み取ったり、気を遣ったりすることが少し苦手でしたが、人の気持ち汲み取ることが得意になりました。また、多くの人と関わることで視野が広がったり、今まで持っていなかった思想や新たな考え方を受け入れることができるようになったり、自分にとってプラスになりました。

(市長)

新しい考え方ができることは大事です。現在、イギリスのボストン町から中学生6人が本市に来ていて、学校で生徒の皆さんと交流することが楽しいと言っていました。異なる文化や人々との触れ合いは重要であり、そういった意味では、皆さんはとても良い勉強をしていると思います。

◆ボランティア活動で得た、自分への自信 コミュニケーション力もついた

(出席者⑤)

ボランティアをやっていて、自分に自信が持てるようになりました。以前は話すことが苦手でしたが、ミライ会議で普段話す機会のない市長と対話したり、地域の人たちと年齢に関係なく交流したり、コミュニケーション力がついたと思います。授業でも、友だちと活発な意見交換ができ、プラスになったと感じています。

(市長)

ある地区では、社会体育大会の時に、中学生が道具運びや運営のお手伝いをしていて、地区の人たちに頼りにされています。皆さんは、ほかにどのような活動をしていますか。

(出席者③)

「美川一周耐寒継走大会」でおにぎりを作って配ったり、募金活動で市民の方々と触れ合ったり、周囲の温かい気持ちをいただいています。また、e スポーツを通じて高齢者と触れ合う活動も行っています。

◆自分の知見が広がった 一度しかない人生、いろいろな経験をしたい

(出席者⑥)

私は、6年間の活動で、自分の知見が広がったと思います。元々、人と関わることは好きでしたが、前よりもっと好きになりました。一度しかない自分の人生なので、いろいろな経験をしたいです。

ボランティア活動以外では、最近空き家が増えてきているので、自分ができる範囲で何かできないか、本を借りたりして情報収集をしています。都市に人口が集中し、田舎の空き家が増えることは悲しいです。

(市長)

白峰地区では、大学生たちが空き家を活用したサテライトを作り、東京大学や金沢大学、金沢工業大学など、複数の大学が参入して、お祭りなど地区の行事に参加したり、ボランティア活動を行ったりしています。

(出席者②)

自分の通う大学でも、ボランティアサークルがいくつかあります。

(市長)

以前、美川まちづくり協議会が参加したミライ会議で、空き家の活用についての話が出ました。

(出席者⑦)

小学校6年生の時に、学校で空き家をどう活用したらいいか話し合い、2年後に実現しようと決めました。実現することは難しいことですが、前向きに取り組むことになりました。

(市長)

白山市は、合併から来年で20年になりますが、全国的に人口が減少している中、合併した頃の人口11万人を横ばいで維持しています。その理由は、住宅地を増やしたり、働く場所を作ったりしているからです。また、皆さんが通学の際に利用する「IR いしかわ線」など、インフラ整備や様々な手立てをとって、人口が減らない工夫をしています。

また、空き家対策も大事です。他の地区では、空き家を使いやすくするための改修工事を行い、改修した空き家を活用してお店を開店するケースが増えています。大学生であれば、将来、地元に戻って、自分で業を起こす「起業」の勉強をしてもいいと思います。空き家問題は全国的な課題であり、白山市でも様々な取り組みを進めています。

◆人と人とのつながりに感動 僕も誰かを笑顔にしたい

(出席者⑧)

僕はスピリッツに入って、自分の住んでいるまちに興味を持つことができました。このまちを良くしていこうと思っている人たちがたくさんいることも知ることができました。ごみ拾い

などの活動を通じて、普段の生活では関わりを持つことのない人たちの温かさに触れ、人と人とのつながりに感動しました。僕も誰かを笑顔にできたらなと思いました。

(市長)

自分の住んでいるまちに興味や誇りを持つことは一番大切です。白山市は、市全域が世界から認められた世界ジオパークです。世界ジオパークに住んでいるのだと、自信を持って言ってください。自分のまちに興味を持ち、人と人とのつながりを作っていくことは本当に大事だと思います。これからもボランティア活動をしっかり頑張ってもらえればと思います。

◆人の優しさを感じる活動 できるだけ続けて、みんなと優しさを分かち合いたい

(出席者⑨)

僕がスピリッツの活動で感じたことは、人の優しさです。活動では、大人がいつもそばにいてくれました。スピリッツの活動は地球に優しいですが、僕も活動していて楽しく、気持ち救われます。だから僕はこの活動をできるだけ続けて、みんなと優しさを分かち合いたいです。

(市長)

やはり人の優しさに触れたときは、元気で笑顔になります。笑うことは健康にもつながると思いますので、白山市が目指している「健康・元気・笑顔」の基本について言っていたと思います。

2. 自分の願う白山市の姿

◆白山市の魅力をいろいろな人に伝えて、その魅力について語り合いたい

(出席者⑩)

僕は美川が大好きです。その理由は、ボランティアをしていると、自分の地域の魅力について知ったり触れたりすることが多く、実はあまり知られていない魅力がたくさんあることに気付いたからです。自分の住んでいるまちがこんなにも魅力があったのか、理由があっただけで知ると、自分の視野が広がって、もっと人に話して知ってもらいたいと思います。白山市の魅力をいろいろな人に伝えて、その魅力について語り合えればいいと思います。

(市長)

去年、ジオパークの視察で、フィンランドから学者と市長が白山市を訪問されたのですが、彼らは私たちの日常の風景に感動し、素晴らしいと言っていました。逆に、私たちが、フィンランドのフィヨルドを素晴らしく感じるのと同じです。違う場所に行って、違うことに触れるのは大事です。住んでいると分からない、普段の魅力を見るといいと思います。

自分の住んでいるまちで自慢できることはありませんか。

(出席者⑩)

自慢ではないのですが、地元の松の木に傷があるのは第二次世界大戦中に松の木の油をガソリン代わりに使ったためだと聞き、あまり知られていない面白いことがたくさんあると思

ました。白山市全体のことを知ると、さらに面白いと思います。

◆直接の関わりが育む、人と人とのつながり 活発に取り組んではどうか

(出席者①)

私は、白山市の地域の住民同士のつながりが活発になるといいと思います。以前に聞いた話ですが、ある保育園の園児たちの声が周囲に響き渡っていたところ、近くで畑作業をしていたおじいさんから騒がしいという苦情が寄せられました。しかし、保育園が園児に畑作業を手伝わせることにしたところ、数ヶ月後には再度の電話があり、「あの子どもたちは元気にやっているか」といった内容に変わったそうです。直接的な関わりを持ったことで、「知らない保育園のうるさい子どもたち」が「畑を手伝ってくれた元気なあの子どもたち」に変わったのです。関わりを持つことはとても大切であると感じました。地域の方たちと関わる試みやつながりに、活発に取り組むといいと思います。

(市長)

白山市では、松任の白山商工会議所、美川商工会、鶴来商工会、白山商工会があって、それぞれ若い方が垣根を越えて集まり、オール白山でやりましょうと連携しています。美川地区に「おかえり祭り」があるように、鶴来地区にも同じように盛り上がる「ほうらい祭り」があるので、高校生でもいろいろな交流ができるといいかもしれません。白山市は石川県内で最も広い面積を持ち、金沢市に次いで人口が多い市です。地理的に交流が難しい面もありますが、それぞれの地域との関わりが増えることを望みます。

◆人との関わりが深く、みんなで地域のことを守るような白山市であってほしい

(出席者⑦)

私が願う白山市は、人との関わりが深く、みんなで地域のことを守るような白山市であってほしいと思います。人に優しいと、地域も明るくなると思うので、私も地域の行事に参加しています。これからも、よりたくさんの方の行事に参加しようと思います。

◆コロナで薄れた、子どもたちと地域社会のつながりを活性化

(出席者②)

先ほどの話でもあったように、全国的に人口が減少している中で、白山市は誕生時の11万人の人口を現在も維持できています。また、白山市では地域の子どもの地域で育てることができていますし、石川県内では野々市市に次いで子育てがしやすい地域です。ただ、それがコロナ禍を経て、子どもたちと地域社会のつながりが薄れてしまっているのではないかと思います。これからは、元々の地域の姿を活性化させ、松任の菜の花地区や鶴来の陽羽里地区のように住宅地が増え、人口が再び増えることで白山市全体が発展し、そこで育った子どもたちが社会に出て、良い影響を与えるのではないかと考えます。

(市長)

子どもと地域のつながりも、コロナの影響で行事が減り、ボランティア活動もだいぶ少なくな

っていただろうと思います。

(出席者③)

美川地区では、以前「通学合宿」を行っていました。小学校5・6年生が公共施設に泊まって集団生活をするもので、スピリッツはボランティアとして、子どもたちをお風呂に連れていったり、お化け屋敷をして楽しませたり、宿題をみてあげたりしていました。コロナの影響で行事が減ってしまい、今のスピリッツの子たちは経験が少ないので、そうした良い行事は復活してほしいと思います。

◆都市部の人口集中で広がる地方との格差 現代に合わせた新しい環境づくりを

(出席者④)

都市部に人口が集中して、都市と地方との格差を感じています。特に、教育、経済、医療面で格差が表れていると思います。コロナ禍で子どもたちと一緒に地方に帰ってきた人がいらっしやいましたが、結局、都内に戻ってしまいました。自分が思うに、地方における仕事のバリエーションが少なく、子どもたちが憧れるような仕事のできる環境が少ないのではないのでしょうか。全国的な課題として、現代の子どもたちに合わせた新しい環境を作っていかなければ地方が危ないのではないかと考えています。市長のまちづくりに関する考えを伺いたいです。

(市長)

とてもいいことを言っていました。

子どもが憧れる仕事という点で、白山市では工業団地をたくさん作り、工場で作った製品を海外へどのように運ぶかなど、いろいろ考えています。白山市には3つの高速道路のインターチェンジがあることで製品の出荷がしやすく、また美川から金沢港へのアクセスを良くするために道路の拡張工事も進められています。また、国道8号線の交通渋滞を解消するために車線の拡張も行われており、このように作った製品を運びやすくするため道路を整備しています。高速道路のあるため、白山市内には大きな会社の物流拠点が増えています。また、ジオパークに関係していますが、地盤が固く工場が建設しやすい場所に加え、工場に必要な水源も豊富であるため、白山市は工場建設に適した、非常にいい立地条件であることをPRして、工場など働く場所を作っています。

住む場所として、住宅地を増やす区画整理事業を行い、人口を増やそうとしています。結婚し、家族が増え、家を建てて住んでもらうために、子どもの保育や教育を充実させ、子育てしやすい環境を作る必要があります。18歳まで医療費無料の制度を他に先駆けて導入したことで、他地域から白山市へ移り住む人が増えることを期待しています。

また、子どもが憧れる魅力ある仕事については、白山市で会社を設立していただけるよう働きかけていきます。そして、働く人、住む人が白山市で良かったと思えるようなまちづくりを目指し、行政として方策を練っていきたいと思います。いいご助言をありがとうございました。

◆机上の学びでは得られない貴重な体験 他の地域でも団体ができ相互交流を深めたい

(出席者③)

本日は貴重な体験を提供していただき、ありがとうございました。

育成者の立場として感じるのは、ボランティア活動を通じた、子どもたちの成長です。定例会での振り返りを重ねるごとに、「楽しかった、うれしかった」という反省が、「あいさつ運動をしていると、相手だけでなく自分も笑顔になれた」、「人との出会いを大切にしていきたい」、「自分をもっと高めたい」と、自分の言葉で語れるようになっていきます。机上の学びでは得られない体験ができ、青少年時代のボランティア活動は貴重だと思っています。

市へお願いしたいのは、他の学校でもボランティア団体が立ち上がって、団体同士が交流を深めていくことです。それができたら、ボランティア人口が増加し、より住みやすいまちになっていくと思います。具体的には、全中学校でボランティア活動の素晴らしさを伝える講演会を開く、市の行事で中学生ボランティアを募る企画があってもいいと思います。

また、自分はコミュニティスクールのコーディネーターをしているのですが、学校と地域が連携し、青少年のボランティア活動をサポートする仕組みづくりができればと思っています。

現在、スピリッツには3名の育成者がいますが、人数を増やして、次につなげていくことが最重要課題です。ボランティア活動は、確実に子どもたちを成長させます。ここでの経験が、彼らが大人になった際に、さらなるボランティア活動へつながると信じています。青少年時代のボランティア活動の推進をお願いしたいと思っています。本日は本当にありがとうございました。

(市長)

今日は本当にありがとうございました。今、考えていること、これから経験すること、それらを通じて新たな思いも生まれると思いますので、自分が思ったことをどんどん進めていってほしいです。迷ったり困ったりしたときは、大人たちに相談しながら、恐れずにチャレンジしてください。これからも中学、高校、大学と、学ぶことはたくさんありますが、様々な人と触れ合い、人間として成長してほしいと思います。今日は本当にありがとうございました。